|  |
| --- |
| **学校経営推進費事業計画書** |
| **１．事業計画の概要** |
| **学校名** | YMCA学院高等学校 |
| **取り組む課題** | 生徒の自立を支える教育の充実 |
| **評価指標** | 健康に不安をもつ生徒へのヘルスケアを通した中途退学率の減少 |
| **計画名** | 『誰もが学びをあきらめない』～Spirit（精神）・Mind（知性）・Body（身体）を育むヘルスケアの実践～ |
| **２．事業計画の具体的内容** |
| **学校経営計画の****中期的目標** | ２　生徒理解を深め、生徒一人ひとりに添った生徒支援を実現する。（2） 専門家や外部との連携を積極的に行う。３　確実な進路補償の仕組みを作る。（1） 学び直しができる仕組みを整え、進路に向き合う力を育成する。４　開かれた学校づくりをし、生徒が活躍できる場を増やす。（2） 生徒が主体的に関わるスクーリングや特別活動を実施する。またボランティアや生徒間交流の機会を提供する。５　持続可能な学校とするための体制を確立させる。（1） 社会の大きな変革の中で、新しい学校の形を探究し、社会に貢献できる学校をめざす。 |
| **事業目標** | 『誰もが学びをあきらめないためのヘルスケアの実践』に向けた取組み目標* こころのケア（Spiritの涵養）：自分の在り方をみつめ、他者と関わる力をつける体験学習を中心としたスクーリングを実施し、人格形成や自己効力感の向上をめざします。
* 学びのケア（Mindの涵養）：レポートサポートをより充実させ、YMCA学院高校のオリジナルメディア利用学習課題を新たに作成し、遠隔授業を実施、通学が困難な生徒を含めた、誰もが学びを継続できる取組みを行います。
* からだのケア（Bodyの涵養）：定期的な健康講座（オンライン実習含む）の実施や歩数や筋力測定によって、生徒が自分の体調を客観的に把握し、基礎体力をつけます。また生徒が相互に支えあえる関係を構築することによって、実習が継続できるような仕組みをつくります。

上記を踏まえて、具体的な取り組み（「わいわいカフェ」・親と子のサポートグループや、医療（関西医科大学）や福祉（公益財団法人大阪YMCA）との連携によるチームでのヘルスケア実践、進路支援等）を実践。その結果学びをあきらめず、未来に希望を抱き、人と人とのつながりを大切する「ひとづくり」を行います。さらに、生徒自身がボランティア活動を通して「自己効力感」を感じられるようになることをめざします。また人材育成のプロセスや成果についてHPでの公表や学会発表を通じて社会への還元を果たします。 |
| **取組みの概要** | **整備する****設備****・物品** | （M・B） パソコン、プロジェクター、プロジェクター天吊金具、ウレタンマット、折り畳み長机（低床）、（B） 液晶ディスプレイ、ビデオカメラ、三脚（B・S） ウエラブルデバイス（スマートウォッチ）、統計ソフトSPSS、（※S・M・BはSpirit；Mind；Bodyの頭文字。その取組みで使用） |
| **取組内容** | **前年度** | （Spirit） カウンセリング・教育相談体制の見直し。事例収集、評価。「わいわいカフェ」のボランティア養成。個別の支援体制検討。健康に不安を持つ生徒・保護者のつどい（Mind） レポートサポート・学びなおし講座実施。進学サポート。（Body） オンライン健康講座・ハイキング。（そのほか） 連携機関の選定（関西医科大学・公益財団法人大阪YMCA・大阪総合教育支援研究所）。医師の講演会準備。教職員研修（OD、ユニバーサルデザインラーニング（UDL）、発達障がい理解）の実施。専門家とのヘルスケアの進め方会議の実施。日本LD学会発表。 |
| **初年度** | （※文末のS・M・BはそれぞれSpirit；Mind；Bodyの頭文字をさします）【前年度からの取組み】* 教員（担任）生徒支援会議（４月～８月・10月～２月）S・M・B
* 医師によるヘルスケアに関する講演会の実施（５月）S・B
* サポートグループ的グループワークの実施（健康に不安を持つ生徒・保護者のつどい）（５月・11月）S・B
* 自然の中のハイキングとワークを組み込んだ「五感で自然を感じよう」スクーリングの実施（６月）

【新たな取組み】* 連携機関（関西医科大学小児科学講座・公益財団法人大阪YMCA）とケース会議の実施（４月以降定期的に実施）S・B
* 月平均の歩数測定の開始（６月以降毎月）B
* ウエラブルデバイス（スマートウォッチ）使用開始。健康講座によるストレス減少を確認し動機づけとする。S・B
* 健康講座（オンライン実習）（前期：６～９月後期：12～３月計27回実施）

※昨年度10回。内容を充実させる。S・B* チャリティーラン（リアル活動）（９月・３月）S・B
* NPO法人D×P「クレッシェンド」と連携しグループワークを実施（自己理解・進路支援）（12月）S
* 生徒・保護者の満足度アンケート実施（９月・３月）S・M・B
* 下肢筋力測定（９月・３月）B
* 歩数分析結果の取りまとめ、次年度への課題抽出、次年度のヘルスケア計画策定（２月）S・B
* 生徒の自己効力感のアンケート調査・データ分析（９月・３月）

※ベースラインの測定S＜通年＞* 生徒の関係・居場所づくり「わいわいカフェ」の開催

※夕方開催SMB・希望者にスタディサプリを導入し、教員と生徒間の指導を実施M* カウンセリング・教育相談S
* 大阪総合教育支援研究所との連携した教員養成を実施・臨床心理士による教員向け傾聴トレーニングを実施。S・M・B
* HPに実践事例発信。S・M・B
* 15時開始の学びなおし講座・レポートサポートを実施。M
* 進学に向けた自学自習の場「進学サポート」（英・国）※夕方開催M
 |
| **２年め** | 【これまで通りの取組み】：初年度の欄を参照【新たな取組み】* オリジナルメディア学習課題の作成・実施（１年次生５月～８月・10月～12月）M
* 健康講座で生徒同士が互いの取組みを継続し、関係性を深めるためピアサポートアプリの導入・健康講座回数増（６月～８月・12月～２月）S・B
* コミュニケーション系講座を中心とする体験学習（総合科目）実施（８月・２月）S・M・B
* ヘルスケアが必要な生徒を中心に据えた体育実技の実施（８月・１月）S・M・B

＜通年＞* 希望者にスタディサプリを導入し、学習促進を促す個別コーチングを実施M
* 研修を受けた担任による傾聴を通した面談の実施（希望者、毎月）S・M・B
 |
| **３年め** | 【これまで通りの取組み】：初年度と２年めの欄を参照【新たな取組み】* オリジナルメディア学習課題の実施（１・２年次生５月～８月・10月～12月）M
* 宿泊研修（８月）S・M・B
* 生徒の自己効力感のアンケート調査・データ分析（９月・３月）S

＜通年＞* YMCA事業所と連携したボランティア活動を通じた対人支援の実施（希望者）S・M・B
* 生徒の体力・自己効力感に関する研究結果発表（HP/学会）S・M・B
 |
| **取組みの****主担****・実施者** | 主担： 生徒支援部会（教頭、主任、カウンセラー（臨床心理士）・特別支援教育コーディネーター、養護教諭、教員、アドバイザー）取組みの実施者： 全教員連携者： 公益財団法人大阪YMCA・関西医科大学小児科学講座・大阪総合教育支援研究所 |
| **成果の****検証方法****と****評価指標** | **初年度** | 1. 単位修得率（修得単位数÷登録単位数）89%以上（R2年度後期87.7%）
2. 中途退学率（年度退学転出者÷（年度末在籍者+年度退学転出者+前期卒業者））（R1・R2年度平均4.67%）4.5%以下（M）
3. 下肢筋力測定（CS-30）の目標を28回に設定。各個人の初回測定から５%増。
4. 歩数測定で8000歩を目標値とし、初回測定の５%増。（B）
5. 「わいわいカフェ」の利用者数、各回平均５人以上。（S）
 |
| **２年め** | 1. 単位修得率90%以上中途退学率4.3%以下。（M）
2. 下肢筋力測定（CS-30）について各個人の初回測定から10%増。
3. 歩数測定で、初回測定から10%増。（B）
4. 「わいわいカフェ」の利用者数、各回平均６人以上。
5. 保護者・生徒アンケート（４段階評価）で肯定的評価を80%以上。
6. 関西医科大学に自己効力感調査の分析・考察による検証。（S）
 |
| **３年め** | 1. 単位修得率91％以上中途退学率4.1%以下。（M）
2. 下肢筋力測定（CS-30）について各個人の初回測定から20%増。
3. 歩数測定で、初回測定から20%増。（B）
4. 「わいわいカフェ」の利用者数、各回平均７人以上。
5. 保護者・生徒アンケート（４段階評価）で肯定的評価を85%以上。関西医科大学に自己効力感調査の分析・考察による検証（前年度比）。（S）
6. 宿泊研修に15人以上参加する。（S・M・B）
 |